

1 趣旨

人口減少対策は総合政策であり、総合計画でもEBPM、根拠に基づく政策立案の推進が求められていることから、4月に新設したWGにおいて、「ロジックツリー」を活用した要因分析を行うこととした。

2 検討状況

自然増減、社会増減、そして人口減少への適応に関する検討を3つの検討部会で進めており、現在の状況を次ページ以降のとおりまとめている。

- 4月26日（金）：第1回ふくしま創生・人口減少危機対策ワーキンググループ
- 5月13日（月）：社会減対策検討部会
- 5月14日（火）：自然減対策検討部会
- 5月15日（水）：人口減少下のあり方検討部会
- 5月21日（火）：第2回ふくしま創生・人口減少危機対策ワーキンググループ

3 今後の流れ

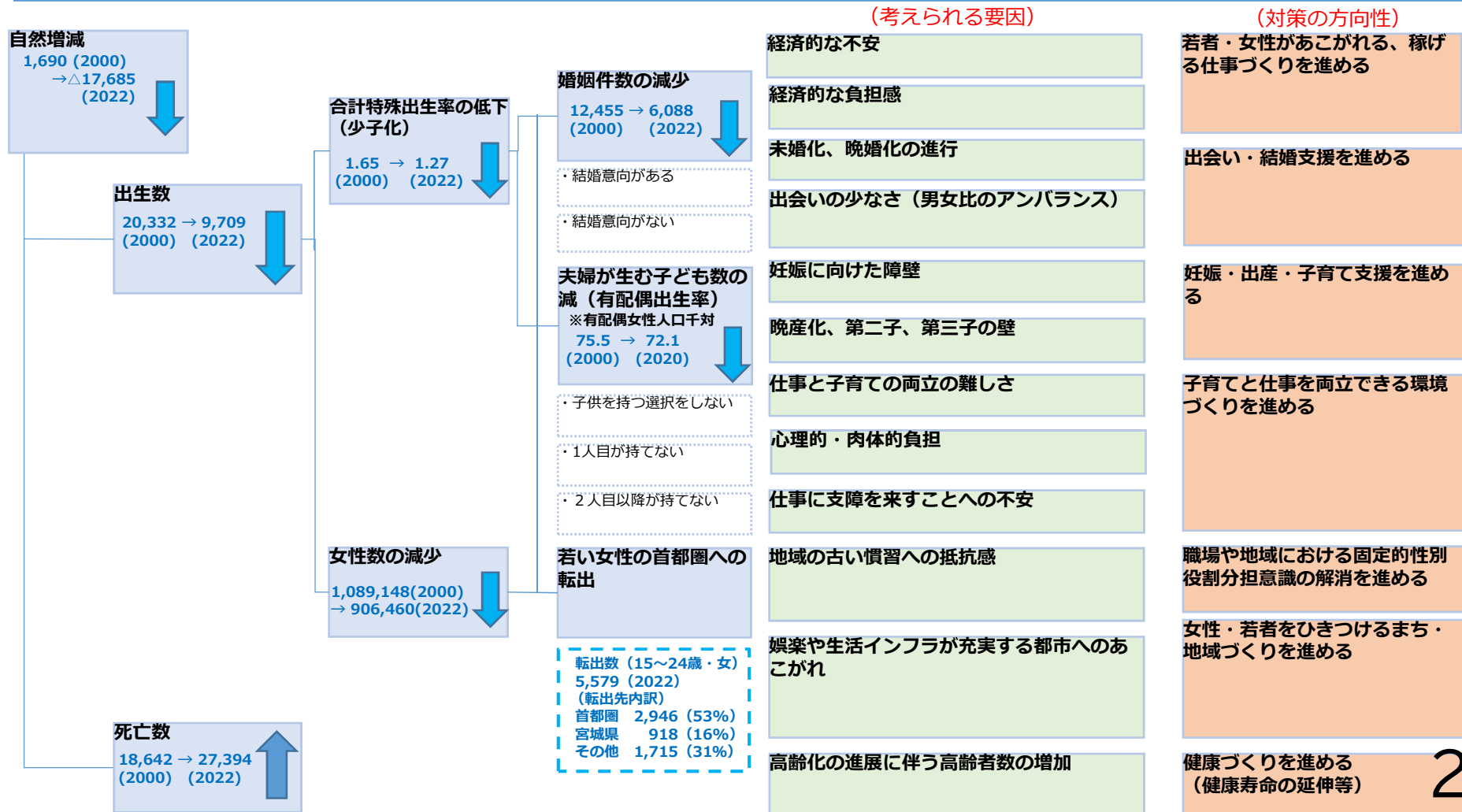
今後、WGでの議論を深めていくとともに、各アンケート調査やヒアリング等の結果を踏まえ、内容を修正（ブラッシュアップ）する。

人口減少対策要因分析：ロジックツリー（自然増減）

※継続的にブラッシュアップ

<ポイント>

- 出生数・婚姻数の減少が継続しており、いずれもこの20年間でおよそ半減している状況。
- 若年女性の流出傾向の継続が、婚姻件数の減少、そして出生数の減少に影響しているものと考えられる。
- 出会い、結婚、妊娠、出産、子育てまで切れ目のない支援と、雇用の創出など社会減対策を一体で取り組む必要。

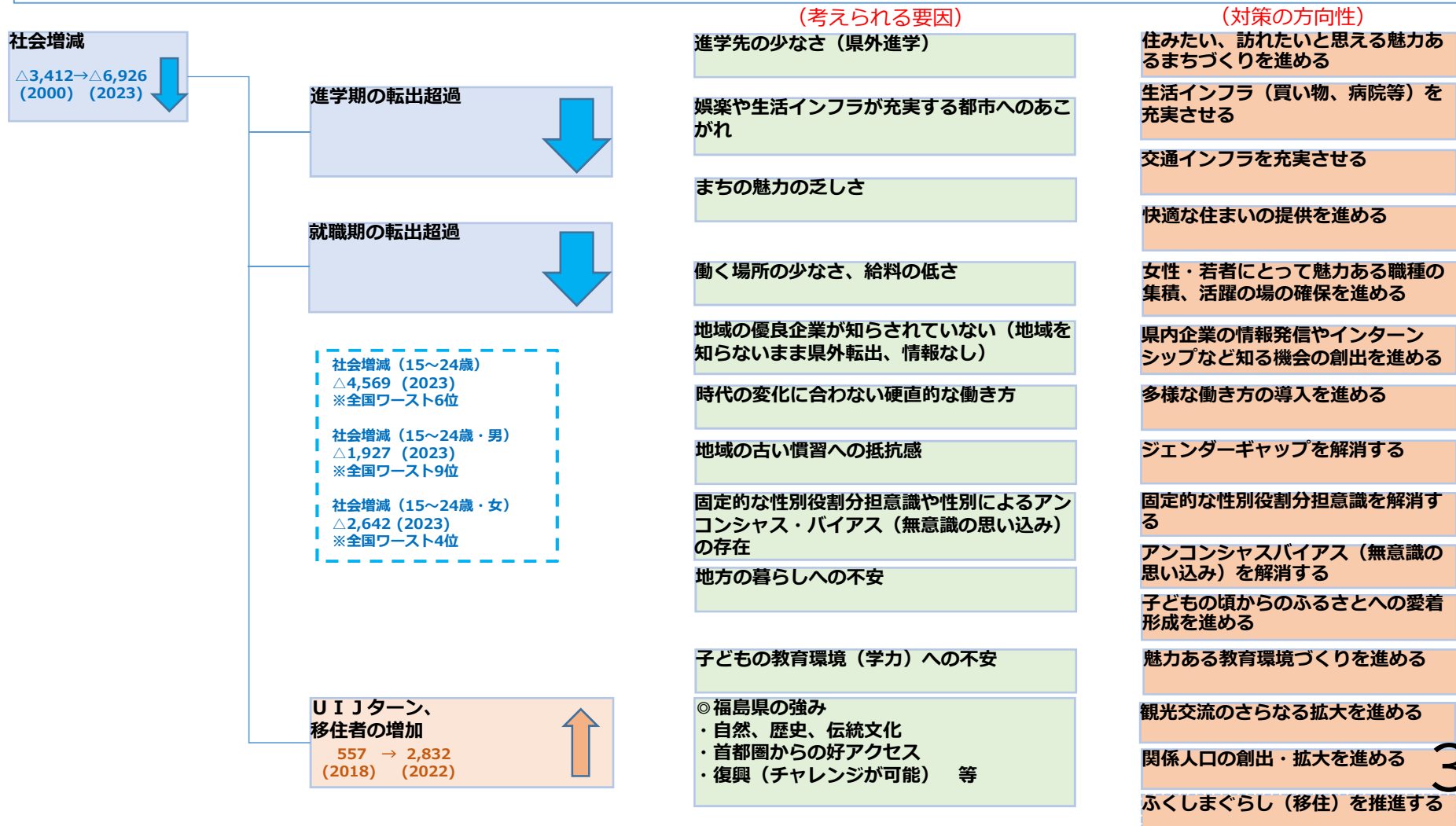


人口減少対策要因分析：ロジックツリー（社会増減）

※継続的にブラッシュアップ

<ポイント>

- 進学期、就職期の若者の転出超過が続いており、特に男性より女性の流出が多い状況が課題。
- 働く場所の少なさや地域企業が知られていないこと、地域の古い習慣への抵抗感等も原因と推察。
- 若者にとって魅力ある企業の情報発信と雇用の創出、職場づくりやジェンダーギャップ解消、移住・定住の促進等が必要。



人口減少対策要因分析：ロジックツリー（人口減少社会への適応）

※継続的にブラッシュアップ

<ポイント>

- 本県総人口の減少は26年継続しており、**今後の将来人口推計からも人口減少は継続**する。
- 人口減少が続く中で、あらゆる分野における**人手不足への対応、労働生産性向上に取り組むことが重要**。
- さらに、時代潮流に応じた**経済構造の転換、人口規模にふさわしい社会システムを検討**することも必要。

